

## 研究実施計画書

平成 27 年 4 月

課題名：膵切除術後患者に対する栄養サポートパスの作成

研究実施者： 墨東病院 栄養科 ◎米田杏子、竹内理恵

外科 脊山泰治、鹿股宏之、工藤宏樹

◎は研究責任者、申請者

### 研究の背景

膵切除術後は、栄養状態の悪化、インスリン分泌の低下による耐糖能の悪化、胃内容排泄遅延等、栄養関連合併症のリスクが高い。また、年齢、性別、原疾患、術式、既往歴、術後化学療法の有無、家族サポートの有無など、患者の状態も様々である。術後経過としても、周術期の経口摂取開始から、摂取量の増加による耐糖能の悪化が懸念される時期まで、時間経過によって指導すべき内容も異なる。膵切除後の患者にきめ細かく対応するためには、医師、看護師、管理栄養士など多職種での栄養サポートが必要である。

### 研究の目的

- 1 膵切除後患者の栄養状態、耐糖能に着目し、栄養サポートパスを作成する。
- 2 栄養サポートパスを活用して、栄養管理を行い、その効果を検証する。

研究期間 平成 27 年 5 月～平成 29 年 3 月

### 研究方法

- 1 肝胆膵栄養サポートチーム (HBP-NST) を立ち上げ、多職種での検討会を開催する。
- 2 周術期、外来フォロー中患者を対象に、栄養状態の評価、耐糖能の悪化について詳細を検討する。
- 3 耐糖能の評価として、血糖値、HbA1c 等を必要に応じて測定する。
- 4 術後の時期によってきめ細かいサポートができるよう、栄養サポートパスを作成し、栄養管理に活用する。
- 5 栄養食事指導について患者アンケートを行い、その結果から指導内容や指導媒体の改善を行う。
- 6 過去の症例を振り返り、術後胃内容排泄遅延、耐糖能異常、脂肪肝についての臨床像を明らかにする。
- 7 栄養食事指導件数、症例毎の指導回数を集計し、栄養サポートパスの活用による変化を検証する。
- 8 在院日数、術後栄養状態、耐糖能、脂肪肝の頻度などの臨床指標を用い、栄養サポートパスの導入による変化を検証する。

## 9 研究結果について、学会発表・論文報告を行う。

### 対象患者

平成 22 年以降、当院で PD、DP を施行した患者

### 評価項目

身長、体重、年齢、胃内容排泄遅延の有無、アルブミン、ヘモグロビン、血糖値、HbA1c 等血液検査データは、診療目的で採血・検査したものを利用する。

### 同意取得方法

侵襲および介入なく、既存資料を使用するため、同意を必要としない。

### 個人情報の取り扱い

検査データは匿名化し、新たな番号によって管理されるため、プライバシーは保護される。データはファイルサーバに保存する。

### 研究によって対象患者に生じうる危険と不快に対する配慮

侵襲なく、介入を行わないため、不利益は想定されない。